特集

ニューノーマル時代の診療放射線技師をめざして

専門技師認定制度・業務拡大・読影の補助における期待される役割と担うべき使命

企画協力：市田隆雄　大阪市立大学医学部附属病院保健主幹兼中央放射線部技師長

現在，進められている医師の働き方改革において，厚生労働省では，タスク・シフト/シェアの検討を行っています。チーム医療による高品質の医療を提供するために，今後，診療放射線技師の役割はますます重要になると思われます。そこで，本特集では，診療放射線技師の専門技師認定制度や業務拡大，読影の補助業務について，放射線科医・診療放射線技師がかかわる学術団体などのトップの見解や事例を交えて展望します。併せて，各専門技師認定制度も取り上げます。これにより，ニューノーマル時代に求められる診療放射線技師像を浮き彫りにします。

特集　ニューノーマル時代の診療放射線技師をめざして

Ⅰ　総　論――ニューノーマル時代の診療放射線技師をめざして

1．放射線科医からの要望

本田　浩　九州大学名誉教授/聖マリア学院大学大学院放射線医療研究部門教授

この度，日本診療放射線技師会（以下，技師会）の執行部体制が大きく変わり，これを機会に本誌でこれからの診療放射線技師のあるべき姿についての特集を組まれるとのことで，原稿を依頼された。現在の医療における診療放射線技師の果たすべき役割は大きく，特に放射線科医にとって診療放射線技師は，放射線診療を共に行う重要なパートナーであり，最良の放射線医療を国民へ提供するために相互の協力が必要であることは言うまでもない。そこで，依頼されたのは「放射線科医からの展望」であったが，「放射科医からの要望」とさせていただいた。

「ニューノーマル時代の診療放射線技師をめざして」とのタイトルである。ニューノーマルとは，社会の変化に伴い新しい常識や常態が生まれることであり，今回のコロナ禍により，今後，「労働市場の流動化」「時間・空間の制約からの解放」「コミュニケーションのデジタル化」等への加速は避けられないところであろう。しかしながら，放射線医療は果たしてニューノーマルとなっていくのであろうか。医療機器やAIの進歩に伴い，放射線医療は日々発展している。この発展を共に進め，消化し，広く国民へ還元する我々の役割に何ら変化はなく，むしろその質や精度を高めることに，これまで以上に努力するべきなのではないかと思っている。

サブタイトルに，「専門技師認定制度・業務拡大・読影の補助における期待される役割と担うべき使命」とあるので，ここでは，専門技師認定制度，業務拡大，読影の補助，それぞれについて，私見を述べる。

〈0913-8919/20/￥300/ 論文 /JCOPY〉